

人権が尊重された授業づくりのためのチェックリスト

評価基準（A:十分である、B:概ね十分である、C:やや不十分である、D:改善を要する）

<学部> 小 中 高 愛徳

視点	No.	評価項目	A	B	C	D	※
環境等	1	学級や学習集団が、わからないことが「わからない」と言えたり、間違いや失敗が認められる雰囲気である。					
	2	発表者と聞き手のルールとマナーが守られている。					
	3	仲間の意見（多様な意見）が大切にされている。					
	4	学習内容や活動に応じた座席の工夫や環境設定、グループ編成等がされている。					
計画等	5	児童生徒の実態を把握し、一人一人の学習意欲や習熟度合いに応じた目標設定がされている。					
	6	単元目標や指導目標が達成できる学習内容になっている。					
	7	児童生徒のつまずきや次の授業に期待していることを把握し、指導計画が立てられている。					
	8	わかる・楽しい授業となるような教材研究がなされている。					
	9	評価の基準や観点、評価方法が明確になっている。					
学習の展開等	10	授業の開始と終了の時刻を教師自身が守っている。					
	11	教師が常に丁寧な言葉づかいや生活年齢を踏まえた言葉づかいをしている。					
	12	児童生徒の人権に配慮した呼び方をしている。					
	13	板書や視覚支援等は、授業内容を構造的でわかりやすく示すものになっている。					
	14	児童生徒が興味・関心をもてる導入ができています。					
	15	児童生徒が学習の目標や見通しをもつことができるようにしている。					
	16	児童生徒にわかりやすい発問や指示がなされている。					
	17	振り返りの時間を確保し、児童生徒に学習の成果を自覚させている。					
	18	学習の目的や意味、授業のねらい等が明確に示され、児童生徒と共有されている。					
人権教育重点目標の内容等	19	発言が難しい児童生徒に配慮し、適切な支援を行っている。					
	20	授業中、一人一人が活躍する場や課題を工夫している。					
	21	児童生徒一人一人の言葉を傾聴し、出された意見や活動に対し適切な評価（承認・賞讃・励まし等）がなされている。					
	22	児童生徒一人一人の学習状況や理解度に応じた指導・支援の工夫がなされている。					
	23	授業内容がわからない児童生徒をそのままにせず、適切な指導・支援がなされている。					
	24	児童生徒に「わかった」「できた」という達成感をもたせるように工夫している。					
	25	児童生徒が自己選択、自己決定するなど、主体的に活動できる場面が設けられている。					
	26	児童生徒に考えたり、表現したりする時間が保障されている。					
	27	指導者の一方的な思いでなく、児童生徒同士が話し合える（関わり合う、学び合う）場面が設けられている。					
	28	児童生徒が互いのよさを認め合える場面がある。					